

事業所名		多機能型事業所ふわり		支援プログラム（児童発達支援事業）		作成日	令和7 年	3 月	7 日
法人（事業所）理念		私たちの暮らす地域では、色々な人達が生活をしています。地域での大きなフィールドの中で「ふわり」を利用してくださる利用者の方々が笑顔のある暮らしをする為のお手伝いを心がけ、利用者の方々に何が必要か、私達支援者に出ることは何かを考え、利用者の方々に地域、家庭での居場所があることを前提とした支援を行っています。 1 利用者が、楽しく通える事業所であり、自分の居場所がちゃんとあるように。2 利用者の一人ひとりに合った療育支援。3 「ふわり」を利用して本当に良かった。」と思っていた事業所に。							
支援方針		児童発達支援事業は、単独通園（母子通園可）をすることで、就園や就学後のイメージを持てるようにしていきます。児の成長発達を見守り、「できた！」を増やすように支援していきます。ライフステージの変わり目には移行先へうまく般化できるよう家庭や関係機関と連携に努める。							
営業時間		9 時	0 分	13 時	0 分	送迎実施の有無	あり なし		
		支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を家族や関係機関と連携していき、個々に合った方法を考えていきます。 睡眠、食事、排泄、着脱を身につける方法。食を営む力の育成と楽しい食事への配慮（感覚等）咀嚼、嚥下、姿勢保持等の支援をします。 発達段階と生活環境を把握し、繰り返しの支援で本人ができる形での定着を図ります。							
	運動・感覚	戸外遊び、レクリエーション活動、感覚遊びなど基本に体力づくりや身体の使い方などを学んでいきます。様々な遊びを通じて、発達の土台となる5つの感覚を養っていきます。感覚の過敏性等については、個々の状況と生活環境を把握し理解を通して根本となる背景を捉え、生活を豊かにすることや、環境づくりを行い、緩和もしくは、日常生活に困難をきたさないような解決策を見出していきます。							
	認知・行動	個々の特性に合わせて、理解できる範囲、理解の方法を把握し、どんな環境設定であれば生活の中で本人の困難さや生きづらさが軽減されるのか考えていきます。 また、情報を適切に処理、コミュニケーションの難しさから生ずる行動の予防方法を考えていきます。 活動は子ども達が理解しやすいように、絵カードや写真等にて示し、活動に見通しをもって行動できるように支援します。							
	言語コミュニケーション	本人の思いが表出されるように、本人の思いの把握、表出方法を考えていきます。思いが伝わる経験を積んでいき、意欲的に自分の思いを表出できるようにしていきます。 適切な言葉使い、表現方法も大人がお手本となって伝え、言葉だけではなく、ジェスチャーやカードなど、その子に合った方法を考えていきます。							
	人間関係社会性	レクリエーション活動を通じて、意図的に他者を意識する設定を設け、自分からの発信、相手の意図の汲み取り、調整していく力を育てていきます。また、ルールを守るや順番交代など指示に沿った行動をするなど、社会に適応する為に必要なスキルを支援します。また、外出行事にて社会参加し、上手くいった、上手くいかなかった多様な経験を通じて、学んでいけるようにしていきます。							
家族支援		家族の感じる不安や心配を和らげる精神面のサポート。 子どもを育てる家族に対して、障がい特性や発達の各段階に応じて子どもの育ちや暮らしを安定させる丁寧な支援をしています。			移行支援		保育園、幼稚園、学校など移行先でも上手く般化できるように各関係機関にて連携して共通理解していきます。		
地域支援・地域連携		地域の児童館や施設等のイベントなどに参加し、地域の人達と交流する機会を設けていきます。			職員の質の向上		職員のモラル向上、支援力強化を主眼とした事業所内外の計画的研修実施。事業所にて気軽に相談し情報共有を行い、職員同士が互いにサポートできる体制づくり。		
主な行事等		4月お花見 5月こどもの日 6月ふわり祭り 7月七夕 8月夏祭り 9月防災訓練 10月ハロウィンパーティー、農業体験 11月遠足 12月クリスマス会 1月初詣、防災訓練 2月節分 3月お別れ遠足、ひなまつり							